

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372700413		
法人名	医療法人福嶋医院		
事業所名	グループホームいるかの郷		
所在地	浅口市寄島町16089-16		
自己評価作成日	令和5年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年3月16 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体が医療法人であり、事業所内にも常勤の看護師がいるので、急変時に迅速な対応ができる。法人理念にもある通り、職員は、入居者に親切でやさしい言葉かけや、レクリエーション、季節の行事を通して、入居者が安心して楽しく生活できるよう支援に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体が地域に密着した医療法人で昨年までの1ユニットから2ユニットとなりこれを機に新たに入居者・家族のニーズを見据えて新しいグループホームを目指し、管理者二人が中心となり職員全員で共に進めて行こうとしている姿が窺えます。  
又、外国人技能実習生(ベトナム人2名、インドネシア人1名)を受け入れて、その実習生の前向きで一生懸命さと丁寧な対応が入居者とその場の雰囲気とを和ませており、様々な挑戦と工夫が窺えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年3月に移転し2ユニットとなり、さらに新しい職員が次々と増え、「職場内教育」の必要性が増す中で、十分に、理念の共有が困難な状態になっている。	去年からの新しい職員も加わり、入居者中心の捉え方の違いなどから共有を図るためにも理念を今一度見直して作成中です。理念に目指すべき姿を分かりやすい言葉で示し入居者のケアにおいて大切なことを再考しています。	新しいメンバー全員で利用者と共に目指すべき姿を具体的な映像でイメージし、それを分かりやすい言葉に落とし込んで迷った時は常に理念に戻れば答えが見えてくるものを作ることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	引き続き、コロナウィルスの影響により、地域との交流が困難な状態が続いている。	法人の方針として現在はまだコロナ禍として慎重に対応しているので外出を控えており人との接触も慎重に対応しています。コロナ禍ではあるもののこれから少しずつ新しい生活のあり方を模索しています。	コロナ禍で経験した事を活かしてこれからはどう工夫して何に気を付ければ出来るのかと言う視点を持って地域との付き合いを進めていく事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出っていくことが難しい状況の中で、情報発信に苦慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームいるかの郷では、2カ月に1回、オンラインで、「運営推進会議」を開き、事業所の取り組みや、現状に関して報告し、助言を求めている。	法人の支援を受けて現在ウェブで開催しています。また参加者の中には個人の自宅からの参加もあります。ウェブは地域で使用しているケアキャビネットというシステムを積極的に活用し地域に根付く様に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	浅口市の高齢者支援課の課長が運営推進会議のメンバーとして協力しているほか、今年度は、運営指導も行われた。	法人が歴史があり行政とは深い関係ができています。担当者とは日常的に連絡と取り合っており、また担当者との関係も良好です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の業務カンファレンスや、勉強会を通して、身体拘束について考え確認しあっている。	定期的に関々のケアから事例を用いて事例検討会を行い振り返りを行っています。また業務カンファレンスにおいてもケアに対する意見が出てその都度どうあるべきか倫理観を持って検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、「虐待防止」の勉強会を、定期的に開催し、不適切ケアの発見、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な教育ができていない。今後、検討してゆきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また「生活援助計画」更新時等、ご家族やできれば利用者が理解できるように説明することを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの流行が続き、ご家族の面会が減る中で、今一度方法を見直したい。	LINEを使用して家族との情報共有に努めていますが使用できない方には手紙等にて伝えていきます。現在直接利用者の顔を見ることが制限されているので新しい面会のあり方を検討しています。	現状で出来る面会方法を職員・家族で話し合い実現できる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務カンファレンスや、日常会話を通じて意見を吸い上げ、話し合いの席に提案している。今後、個人面接も活用していきたい。	必要な物品やハード面の要望は遅滞なく話し合っており、疑問質問にもその都度対応しています。また改善に関する意見も職員一人ひとりに耳を傾け現場に反映する様努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で開かれる「主任会議」や「衛生委員会」の中で職場の環境整備についても話し合われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のOJTや、法人内部、外部の研修への参加を促している。また、事業所内の勉強会を通して、職務に必要な知識、技術を得られるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、外部同業者との直接の交流は難しいが、オンライン研修を活用したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当事業所では、入居者とのコミュニケーションをしっかりとること、入居者の思いや要望に耳を傾けるように指導しており、職員も心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時、生活支援計画の変更時には、必ずご家族の思い、要望を傾聴し、支援計画に反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居契約時、ご家族の要望によっては、老健等、他施設の紹介も視野に入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の残存機能の把握に努め、自分でできることはもちろん、生活に役割を持てるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌の送付、ガラス越し面会の推進、LINEを通しての交流等、ご家族と入居者が、交流できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活との連続性を考慮して、ご家族には、ご本人の気になっていたもの、なじみのものを持参していただくようお願いしている。	母体の福嶋医院を入居者がよく知っており、地元として共通の話題も多く馴染みの人、又場所として関係の継続に繋がっています。入居7年の方もおり、職員と馴染みの関係も出ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同志の表情や会話に留意し、良い関係を築けるように席を配置したり、職員が間に入って入居者同士が交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の情報提供や居住環境に関する支援のほか、いつでも相談に応じる用意があるし、応じるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話や表情等を通して、入居者の心の動きや思いを把握できるように努めている。	入居者本人の今までの暮らしを大切に考え、食事や入浴など一日の流れの中で状況を見極め本人の希望や思いを大切に支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に支援事業所から得られる情報のほか、入居者自身からの聞き取り、ご家族からの情報を通して情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、業務日誌や申し送りなどを通して、個々の職員が見た状況を共有し、状況の把握に役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新時期にかかわらず、職員個々が得た情報、見た状況を毎日の申し送りや、毎月の業務カンファレンスで集約して、介護計画を組みなおしている。	ケアプランは3ヶ月毎に更新していますが特にその限りではなく、その都度ケアカンファレンスを開催し根拠に基づき検討更新し、その人らしい暮らしに添った介護計画の作成を心掛けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、ケアカンファレンスで、介護の際感じた変化や気づきを、共有し介護計画を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の必要の把握に努め、柔軟にケアに生かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在もまだ、外部との接触については自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医から、月に二度訪問診療をを受けている。また、体調変化時にはいつでも相談できる。	基本かかりつけ医は自由ですが入居者全員が福嶋医院を希望しています。また歯科は月2回の往診があります。専門医に関してはかかりつけ医で受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、当事業所には常勤の看護師がおり、相談や対応ができる状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報提供できる。また、入院中は家族、病院とも連絡を取り状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	継続的な医療処置が必要になったときや、その可能性が認められるときは、早い段階で家族の思い、できればご本人の気持ちも聞き、家族と医師の話し合いの場を設けて支援に取り組んでいる。	昨年はホームで3名の看取りがありました。入居者の状態によって移転先で看取ることもあります。重度化や終末期に対し看護師から指導また医療からのサポートもあり、入居者・家族の安心に繋がっています。看取り後の職員へのケアも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や、グループホームの勉強会を通じて、緊急時の対応について学ぶ機会があるが、十分に活用できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、事業所内の消火訓練、災害時避難訓練を行っている。	年に2回行っておりグループホーム単体と法人全体で消防署の指導の下行っています。現在の避難方法の考え方は垂直避難ですが実際には階段へ集中する事も考えて検討中です。また海が近いので災害(津波)訓練も行っています。	避難訓練から実際の経験を活かし根拠に基づいてより安全で実現可能な避難方法と避難場所を含む避難計画を消防署と共に作成していく事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人個人を尊重した言葉かけや対応に努めている。	入居者は名字で呼ぶことを統一し、その人らしさと現状に添った声掛け、対応を心掛け、新しい職員への教示と毎月の勉強会でも日々のケアの振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをするときは、相手の意思をできる限り尊重し、すべてにおいて無理強いを行わないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので、常に自分のペースで行うことは難しいが、それでもできる限り、入居者が自分のペースで生活できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心掛けている。また、身だしなみについても支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事については、当事業所では、調理していない、業者から調理済みのものを購入し、温めて提供している。今後、イベント食や、おやつ作りなどを取り入れていきたい。	残存機能や嚥下に注意しながらその人に合わせた食べやすい食事を提供しています。入居者の希望を取り入れながら一緒にできる献立など検討しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の入居者個々の食事量や水分の摂取量を記録している。状況に応じて、管理栄養士や医師の助言をうけ、水分不足、栄養の不足がないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時毎食後、口腔ケアの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使って、排尿排便の間隔を調べたり、排泄の事前行動を把握して、排泄の失敗を減らせるように支援している。	トイレでの排泄を促しながら尿失禁の軽減のためにパットと紙パンツを適宜使用しています。また毎日記入している排泄表は健康管理に使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の支援や、体操やレクリエーションによって、体を動かせるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や、時間にとらわれず、ご本人の希望をできるだけ考慮して入浴できるようにしている。	健康状態に気を付けながら普通浴、機械浴又入居者の希望に添った入浴支援に努めています。入浴拒否のある時は、職員同士協力しながら入浴を促しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	集団生活なので限界はあるが、出来るだけ個々のペースで、就寝、起床できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の情報は、介護記録と一緒に保管しており、いつでも見ることができる。また、看護師から必要な指導は受けられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、ご本人からの聞き取り、ご家族からの情報をもとに、個別のレクリエーション。集団レクリエーションの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウィルスの影響で思うようにきていないが、今後、外出の機会を見つけていきたい。	法人の方針によりまだ外出は控えています。がホームの回りが砂利道で歩行しづらい事もあり、今後簡易な方法で平坦で安全な道ができないか検討しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、グループホームいるかの郷では、お小遣いを含め、現金の取り扱いがない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使うことは可能である。年賀状や、手紙を送ってくださる家族もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや行事のほか、入居者同士の相性を考慮した席の配置など、居心地の良い空間を提供できるように努めている。	昨年と同じ敷地内にユニットとして転居した建物にはセンサーがあり、環境の管理をAIが行っています。外国人技能実習生の前向きな一生懸命で丁寧な対応に入居者との良好な関係が場を和ませ居心地の良い空間づくりに繋がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性を考慮し席を配置したり職員が間にはいって交流を促したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の必要に応じて、ベッドの位置、家具の配置を考慮し、安心安全な生活が送れるように支援している。	居室は利用者一人ひとり自由にコーディネートしています。また家族も一緒に本人が安心できる空間を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の残存能力に配慮して、できる限り自立した生活が送れるように支援する。		